

なり衆さし此頼久公も今は是迄ありとて生年十七歳
にて奥州さして落ち玉ふ先より兵庫頭跡より湯村近江
守中供王に預り多き事ながらも主従の人々落し玉ふ
其日いか成る日るや天正十二年十月十日より少くは
梨木清水より出玉ひし所より其日此年此時より雪降
衆ももる衆大佛を以通りの時い雪もはれ衆程なく
崩山へ中着あり是より兵卒二百人余あり奥州への所
供より上十九人にて趣き玉ふを介し而返しあされり
右軍中此時西楯の寺より中所ののり使僧もあられに教
も押寄せ寺へ火をかかれ大門中門七堂伽藍一度に燃

何かり熊野堂七観音空世堂御霊屋共あられに焼失せり
然るに中本表記所といふ若火をかくられ其焼煙り表記所
か口へ入りあられに焼く死よりなり是よりいあられ佛
院の市野寺に諸人告をまされり寺間西楯より中所の
使僧専阿弥坊増田掃部前より生捕られ守阿弥坊は
伊豆左馬助より前より生捕られあ僧を教ぬきより兵卒
数多るて山形差して所処を落人とも是をえといふき教の
振寄あられ木口平七寺僧次郎言沢平八今世劫之衆
今由弥多る衆村弥市東海木弥助横井善七須賀又市
井上曾七山田惣右衛門和田小太郎柏倉彦右衛門森谷市助